

特集にあたって

神奈川県総合リハセンター七沢病院 横 山 巖

リハビリテーション医学は本来、物理療法学の基盤の上に発展してきた医学の一領域である。その成長の過程は米国リハビリテーション医学会の名称の変遷を辿れば一目瞭然である。

- 1923年 American College of Radiology and Physiotherapy
- 1924年 American College of Physiotherapy
- 1925年 American Congress of Physical Therapy
- 1946年 American Congress of Physical Medicine
- 1953年 American Congress of Physical Medicine and Rehabilitation
- 1967年 American Congress of Rehabilitation Medicine

ところで、リハビリテーション医学は物理療法の限界を見据えた上で、およそ障害者の援助に役立ちうると考えられる多くの関連専門職を集めて、個々の障害者に多面的にアプローチし、その集積によって、個々の専門職単独では到底達しえない大きな成果を収めてきた。これは物理療法を含めて個々の専門領域の限界を認識した上で、それでもなおかつ障害者に出来るだけのことをしてあげたいという精神のあらわれであろう。そこには障害者のためになることなら何でも採用して、その回復に役立てようという精神が脈打っているように思われる。これらのリハビリテーションに携わる人々の目に、後述のハリ治療が、とりいれられるべき新しい治療手段として映じたのは蓋し当然のことであろう。

ハリ治療はいうまでもなく、故くして新しい物理療法の1つである。数年前に、中国からハリ麻酔の報道が伝えられたときの驚きは今なお記憶に新しい。ハリによる麻酔で内臓外科手術が行えるということについては、当初ほとんど大部分の人が半信半疑であったといってよかった。しかし、その後、正確な情報が次々と伝えられるに及んで、わが国のみならず欧米においてもハリ治療に対する再認識と再評価の動きが高まった。

ハリ治療が各種のいたみに奏効することは昔から知られていたが、科学的な検討が必しも十分になされていなかったために、従来は医師のハリ治療に対する関心は一般的に極めて低かった。しかし、中国における大きな成功に刺激されて、最近では、わが国のみならず欧米においても、西洋医学的手段を用いてのハリ治療の再検討が盛んに行われるようになり、ハリ治療についての評価は徐々にたかまりつつあるように思われる。

ハリ治療がもっとも著しい効果を呈するいたみのコントロールはリハビリテーション医にとって極めて関心のつよい問題であるし、その他もろもろの効果ありとされる徴候についても果してどの程度の効果があるものか、正しい評価を期待したいところであり、それらの効果のメカニズムについても大いに興味を惹かれるところである。ここ3、4年来、日本リハビリテーション医学会の演題中にも、ハリ治療に関するテーマが毎年のようにみられている。

東洋に古くから伝わる物理療法の1つであるハリ治療に新しい光が当てられたことは誠に喜ばしいことである。そしてこのハリ治療がリハビリテーション医療における物理療法の1つとして、世に広く用いられるようになるのも、遠い将来のことではないように思われる。

この特集がハリ治療に関する正しい認識をリハビリテーションに携わる人々に与えることができるならば、極めて意義深いものとなるであろう。